

全国学力学習状況調査の分析

国語の成果と課題について

【成果】

A:「思考力、判断力、表現力等（読むこと）」において、目的に応じて中心となる語や文を見つけて要約したり、自分が必要な情報を見付けたりすることができている。

B:「知識・技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）」において、漢字の送り仮名に注意して正しく漢字を書いたり、敬語を場面に応じて正しく扱ったりすることができている。

【課題】

A:「目的や条件に合わせて文章を書きまとめる」

→本校の課題Cからうかがえるように、無解答率が問題後半につれて上がることや、書く問題の正答率の低さから考えると、目的や条件に応じて文章を書くことに苦手意識を抱いている児童が多くいることが予想されます。目的や条件に応じて文章を書きまとめる力をより高める為に、定型文等をもとに書き慣れることを大切にしていきます。

【目的や条件の例】

○意見文（提案）

- ①自分の立場を決める。
- ②その理由を文章（新聞）から引用し、①の根拠を明確にする。

○推薦文（提案）

- ①物語を要約し、その物語のすばらしさを述べる。
- ②その理由を文章（新聞）から引用し、①の根拠を明確にする。

○意見文（感想）

- ①自分の感想を述べる。
- ②その理由を文章（新聞）から引用し、①の根拠を明確にする。

B:「思考・判断・表現」において、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」

→「読むこと」では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題がありました。「話すこと・聞くこと」では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力に課題がありました。文章のまとめ（始・中・終）を意識して、文章の全体像や場面設定を理解して文章を読み進めることを大切にしていきます。

C:「問題が後半になるにつれ、無解答率が高い。文章の読み取り、設問の理解に時間が多くかかった、もしくは、問題が難しく解答することができなかったことが予想される。

→多くの児童が書く問題等に対して、粘り強く取り組んだと回答していました。また、問題解答時間は足りなかったと回答する児童が多くいたことをふまえると、課題Aと深く関連していると考えられます。児童のつまづき多い「目的や条件に合わせて文章を書きまとめる」ことに焦点をあてていきます。

算数の成果と課題について

【成果】

- A : 「変化と関係（知識・技能）」の領域について、伴って変わる不達の数量について表から変化を読み取り、式に表すことができています。（比例）
- B : 「数と計算（思考・判断・表現）」の領域について、（ ）を用いた式の意味や分配法則を理解し、正確に計算することができています。

【課題】

- A : 「数と計算（知識・技能）」で、一の位が0の二つの2位数の乗法の理解

→乗数と被乗数の0の処理や、四則計算の正確性を高めます。また、除法の計算の意味（十の位を10のまとまりとして捉える）についてもドリル学習等で反復練習を設けていきます。

- B : 「図形（思考・判断・表現）」の領域において、図形を構成する要素や各図形（長方形・正方形・平行四辺形・ひし形・台形・直角三角形・正三角形・二等辺三角形・円）の定義の理解

→四角形（長方形・正方形・平行四辺形・ひし形・台形）や三角形（直角三角形・正三角形・二等辺三角形）、円の定義（直角・平行・等しい角・等しい辺・内角の和・半径・直径・中心）を児童が整理・理解できるようにする必要があります。図形を構成する要素をより深く理解できるように図形遊びや作図活動等を設けていきます。

- C : 「変化と関係（知識・技能）」の領域において、百分率で表された割合についての数量の理解

→割合の定義やその求め方の理解に課題がありました。割合の定義やその求め方を定着できるように、児童にとって身近な算数的事象を取り上げ、割合についての興味や関心を高めながら理解を深めることができるようにしていきます。

児童質問について

【良いところ】

- ・「国語や算数を学習することが好き」と回答した児童の割合が全国や県平均と比較すると上回っていました。今後も児童の興味や関心を高める学習時における導入の工夫等を大切にしていきます。
- ・「友達関係に満足している」と回答した児童の割合は、全国や県平均と比較すると上回っており、本校の単学級編制による児童の人間関係の安定が見られました。今後も数多くの学校行事を大切にし、児童同士の信頼感や学級、学校への所属感と安心感がより高まるようにしていきます。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」など多くの児童が当てはまると回答し、高い規範意識が見られました。今後も全職員共通理解のもと、「いじめはしない・させない・ゆるさない」を児童へ呼びかけていきます。
- ・「読書は好き」と回答した児童の割合は、全国・県平均と比較するとやや上回っていました。今後とも学校図書室の環境整備や児童が主体的に行う読書推進活動を大切にしていきます。

【課題】

- ・「毎朝、朝食を食べていますか？」の質問項目では、「している」・「どちらかというとしている」と回答した児童の割合が全国や県平均と比較すると下回っていました。児童の学力を支える素地のために、ご家庭での「バランスのとれた朝食」と「規則正しい睡眠時間」についてご協力をお願いします。
- ・「1日当たりどれくらいの時間、読書しますか?」「昼休みや放課後、休日にどれくらいの時間、読書しますか?」の質問項目では、児童の読書時間が全国や県平均と比較すると下回り、「読書量減少」が見られました。高学年になるにつれて「読書量」の二極化が顕著になり、活字離れ（知識量・語彙力・読解力の低下）が懸念されます。引き続き、学校での図書室利用の機会の確保や学校図書室の環境整備を大切にしていきます。ご家庭でも読書活動の声かけをお願いします。